



**松木 遼吉 さん**  
神道文化学部4年  
奉職内定・地方公務員内定

神職と公務員、両方の立場を活かしながら、地域に寄り添った貢献ができる人材になれるよう努めて行きたいと願っています。



4年間で最も思い出深いことは、6泊7日の神宮実習です。朝の静寂の中での参拝や神職の方々の祭祀作法など、日常では到底味わえない時間が流れていました。社殿の空気に触れ、礼儀や所作をひとつひとつ学ぶ中で、自分の心が自然と引き締まり、神道の厳肅さや奥深さを肌で感じました。また、同じ志を持つ仲間と過ごした時間は、学びを深める貴重な経験となりました。

卒業後は、地元の市役所で勤めながら、兼業神職として奉仕していく予定です。

市役所での業務を通じて地域の課題解決に取り組む一方で、神職として地域の祭祀や行事に携わり、伝統文化や精神的な絆を次世代に向けて繋げていくこと。それが今後の自分の目標です。

神職と公務員と、両方の立場を活かしながら、地域に寄り添った総合的な貢献ができる人材になれるよう、日々努めていきたいものと願っています。

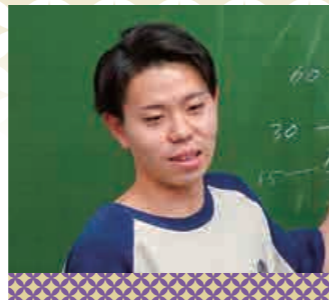


松本さんはこんな学生でした!

**山口祐樹 准教授**  
〔神社祭祀演習ⅢB〕担当



松本さんは、「祭祀演習ⅢB」という講義の中で、真面目に授業に取り組み、自ら積極的に実習に参加してくれました。講義の中で大事にされるのは、正しい「姿勢」と流麗な「立ち居振る舞い」です。これらは、一朝一夕で身につくものではなく、日頃から意識を向け努力することが求められます。松本さんの、何事にもコツコツと真面目に取り組む姿勢が、その立ち姿にもよく表れていたと思います。今後の活躍を期待しています。



**加藤 建 さん**  
神道文化学部4年  
奉職内定・地方公務員内定

地元の公務員として地域に溶け込み、その中で培った知識や人脈を、ご奉仕の場でも役立てていきたいと願っています。



神道文化学部を志望した理由は、祖父や父が神職として奉職する姿を身近で見て育ち、自然と憧れを抱くようになったからです。地域の人々と向き合い、神事や祭りを通して暮らしを支えるその姿に触れる中で、私も神職という仕事に就き、地域の伝統を未来へつないでいきたいと考えるようになりました。その思いを形にするため、神道文化学部に進学したのです。

将来は地元の公務員として働き、地域にしっかりと溶け込み、その中で培った知識や人脈を、ご奉仕の場でも役立てていきたいと考えています。神道文化学部は、専門的な知識だけでなく、目標に向かって努力する「姿勢」を育ててくれる学部です。神職を目指す方はもちろんのこと、神道や日本文化に関心のある方々の入学を、心からお勧めします。



加藤さんはこんな学生でした!

**柏木 亨介 准教授**  
〔宗教学演習Ⅱ〕担当



加藤さんは気持ちの優しい青年です。ゼミの発表では、地元の祭りの様子について、氏子の気持ちを汲み取りながら報告していたことが印象に残っています。これからも、100メートルを11秒台で走りきる脚力を存分に活かし、地域活性化のため駆け回っていくことを期待しています。



この学部でしか学べないことがある

# 神道文化学部



## 令和9年度 総合型選抜、神道学専攻科、別科神道専修(Ⅰ・Ⅱ類)入試日程

入試制度	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表	入学手続期間(消印有効)
神道・宗教特別選考(Ⅰ期) 〔神社本庁包括下の神社〕及び〔神道系教団〕の後継者を対象とした入試です。	9/11(金)~9/17(木)	1次:書類選考 2次:10/18(日)	1次:10/7(水) 2次:11/2(月)	11/2(月)~11/9(月)
神職養成機関(普通課程)特別選考	9/11(金)~9/17(木)	10/18(日)	11/2(月)	11/2(月)~11/9(月)
公募制自己推薦(AO型) 〔神道文化学部でぜひとも神道文化・宗教文化を学びたい〕という強い意欲を抱く志願者を選抜します。	9/28(月)~10/2(金)	1次:10/18(日) 2次:11/15(日)	1次:10/23(金) 2次:11/25(水)	11/25(水)~12/2(水)
神道学専攻科 4年制大学を卒業した神職子女が、1年間で神職資格(明階検定合格、正階授与)取得を目指す課程です。	11/1(日)~11/9(月)	11/29(日)	12/9(水)	12/9(水)~12/16(水)
神道・宗教特別選考(Ⅱ期) 〔神社本庁包括下の神社〕及び〔神道系教団〕の後継者を対象とした入試です。	2/4(木)~2/9(火)	1次:書類選考 2次:3/2(火)	1次:2/17(水) 2次:3/13(土)	3/13(土)~3/18(木)
別科神道専修Ⅰ類・Ⅱ類 高等学校の卒業者が、神職資格を目指す課程です。	2/4(木)~2/9(火)	3/2(火)	3/13(土)	3/13(土)~3/18(木)

\*出願資格や「入学試験要項」など詳しい入試の情報については、國學院大学ホームページをご覧ください。本学入学課(電話03-5466-0141)へお問い合わせください。志願される方はお早めに「入学試験要項」をご確認ください。

### 神道・宗教特別選考を志望する方々へ

本学では、(1)神社本庁所属神社の神職、またその家系の子女で、継承者となる方々もしくは、(2)神道系教団所属者の子女で、将来、後継者となる方々を対象にして、「神道・宗教特別選考」という入試制度を設けています。詳細は國學院大学のホームページをご覧ください。

オープンキャンパス(渋谷キャンパス) 令和8年8月1日(土)/2日(日)/22日(土)

※学年は取材時のものです。

もっと日本を。もっと世界へ。





神道文化学部で、人生の目標を掴みとることができました。



桐田 歩実さん

神道文化学部4年  
奉職内定



高校の頃、日本史や日本の伝統文化に興味を持つ中で、神道文化学部のことを知りました。「この学部でしか、学べないことがあるのでは…」そう思って進学を決意しました。

入学後は、神道について基礎から学びました。授業で出てくる用語は耳慣れないものばかりで、ついていけないかどうか不安に思ったことを覚えています。けれども、授業を受けるにつれ、段々と理解を深まっていきました。

神道文化学部の先生方は、とても温かく、しかも熱意を持ってご指導くださいます。関心の薄かった分野でも、自然と引き込まれてしまうような、魅力的な授業が数多くありました。多種多様な講義・講座を通じて、ここでしか得られない学びを、楽しく、そして深く究めることができた実感しています。

國學院大學には、六つの神道系サークルがあります(神楽舞・雅楽・衣紋・祭式・神輿)、私はそのうち五つに入会し、観月祭・加冠式などの大学行事に携わりました。同期の仲間には、私と同じような初心者が大勢いました。先輩方の丁寧なご指導のもと、安心して稽古に取り組むことができました。神楽舞のサークルでは、会長も務めさせていただきました。こうした課外活動によって、大学内外の多くの方々と

出会い、自分を成長させることができたと感じています。

毎年十月に行われる観月祭では、三年次に浦安舞、四年次に左舞の舞人を務めました。仲間と一緒に舞台を作り上げることの「難しさと楽しさ」を、身をもって体験させていただきました。観月祭に打ち込んだ歳月。それは、まさしく私の青春の日々そのものでした。

楽しくも充実した学生生活を過ごす中で、「これからも神道を学び続けたい、神道を一生の仕事にしたい…」という思いが日々強まっていきました。尊敬する神職さんとの出会いもあって、思い切って神職を目指すことを決意したのです。

四月からは、ご縁をいただいた神社に奉職いたします。学部で得た多くの学びと経験を活かし、神様と人との「仲執持ち」を目指して、神明奉仕に勤しみたいと願っています。

私は、神道文化学部で、人生の目標を掴みとることができました。大切な恩師、生涯の友と出会うことができました。たくさんの思い出を胸に刻むことができました。本当に多くのものを得ることができたと思っています。

入学を検討している皆さん。「この学部でしか味わえない濃密な四年間」を、ぜひ身をもって経験してみませんか？



鈴木 聡子 准教授

神社史・神道史

鈴木先生はこんな先生！

桐田 歩実さん  
〔神道史学演習Ⅱ〕受講



鈴木先生は笑顔が素敵な、とても優しい先生です。そのお人柄は多くの学生を惹きつけています。ゼミには先生を慕う学生がたくさん集まります。

様々なテーマの学生がいますが、先生は学生それぞれに、多岐にわたる知見に基づいた的確なアドバイスをくださいます。私も研究に行き詰まった際、何度も先生に相談させていただきました。おかげさまで自分の研究テーマをしっかりと突き詰めることができました。

フレンドリーな鈴木先生を前にすると、自分の研究のことからプライベートな話題まで、ついお話しすぎてしまうほどです。とても素敵で大好きな先生です。



私自身、神道文化学部になる前の、文学部神道学科の卒業生です。学部で学んだあと、大学院で研究を続け、平成31年に神道文化学部の教員として着任しました。私の研究は、神社の祭りの歴史についてです。中でも特に神社で一年を通して恒例に行われる神社年中行事が、いつ、誰によって、どのように創始されたのかということに興味を持って調べております。

も代えがたい貴重な経験こそが私の研究テーマの出発点となったのです。

本学部の魅力は、私が経験してきたように、常に学生に寄り添いながら学びを示すなどして学生生活を見守ってくれる学部教員の存在と、「神道文化」という共通の興味関心を強く持ち全国から集まって来る学友の存在にあると思います。

このテーマで研究するためのきっかけは、恩師と学友の存在です。学部学生時代、同じ志を持つ仲間と全国の神社に参拝し、その歴史と文化に触れたことで生じた興味や疑問などを、共に調べ語り合ったことにあります。また、調べていく過程では先生に密に御指導をいただき、助言を受けながら学びを深めていきました。このような何物に

また、学生達が主体となって舞楽や管絃を奏する10月の観月祭などを執り行っていることも魅力の一つです。皆で一体となって行事を運営する学生の姿はなんとも充実感に満ちたものがあります。このような環境のなかで、同じ志を持つ学友とともに自分らしい学びを深め、充実した学生生活を送ってみてはいかがでしょうか。

「神道文化」に憧れる学友たちが、全国から集まります！





### 神さまの近くで「人と人とのつながりの大切さ」を学ぶことができました。



小笠原 誠哉 さん

神道文化学部4年  
奉職内定

山口 祐樹 准教授



小笠原さんは、瑞玉會という祭祀サークルに所属し、4年間大学神殿の祭祀に奉仕してきました。祭典だけではなく、早朝のお掃除から祭場やお供え物の準備、片付けにいたるまで、会の代表として率先して力を尽くしてくれました。

その祭祀に真面目に取り組む姿勢は、後輩や仲間達にも良い刺激になったと思います。こうして積み上げた経験は今後の神明奉仕の場でも遺憾なく発揮されるものと確信しています。

私は秋田県の社家の生まれです。宮司である母の背中を見て育ちました。神社の仕事を手伝う中で、自然と「母のような神職になりたい」という思いを強く抱くようになりました。

入学してみると、学部の授業はどれも興味深く、どの科目も熱心に聴講しました。3年次になると、自分の研究テーマに沿ったゼミに所属することができます。神社の祭祀に興味があった私は、鈴木聡子准教授のゼミに入り、二年間「神葬祭」について研究を重ねました。

課外活動では、母のすすめもあって、祭祀サークル瑞玉會に入りました。祭祀や雅楽の稽古はもちろん、大学神殿での祭典奉仕にも励みました。辛く厳しい局面も多々ありましたが、仲間たちとのチームワークと切磋琢磨によって、心身ともに大きく成長することができました。

3年次からは瑞玉會の会長を務めたほか、大学行事である観月祭の学生統括を任せていただくなど、人前に立つ機会が増えました。大勢の方々と触れ

合う中で、「人と人とのつながり」の大切さを、身をもって学ぶことができましたと思います。

こうした経験、仲間たちとの交流は、自分自身の神道に向き合う姿勢を、改めて見つめ直す機会ともなりました。私が役職を全うすることができたのは、先生をはじめ学生同士の、「学部や学年の垣根を越えた繋がり」があったからこそです。思えば、「地域の纏め役」としての神職を目指す上で、これ以上ないような、恵まれた環境でした。

卒業後は、かねて目指していた奉職先で、これまで以上に神道に向き合っていきます。微力な私ですが、神社界に少しでも貢献し、これまでお世話になった方々に恩返しできればと願っています。

同期の仲間たちも、それぞれ各地の神社に奉職します。全国から集まった仲間たちと出会い、一生ものの絆を結び合わせることができるのが、わが神道文化学部の大きな魅力です。皆さんの入学を、心からお待ちしています！



山口 祐樹 准教授

祭祀学・神社祭祀

山口先生はこんな先生！ 小笠原 誠哉 さん



大学神殿でのご奉仕や観月祭などで、山口先生には大変お世話になりました。山口先生は、神宮、宮内庁掌典職での奉仕経験を基に、祭儀の意味や歴史について実感をもって教えて下さります。何より一つ一つのお話が本当に興味深く、いつも心に染み渡ります。

先生のお人柄も相まって、多くの学生から慕われています。神職を志す学生の背中を、力強く押してくださる頼もしい先生です。



現在私は、祭祀学と神社祭祀を専門としており、古来神社で行われてきた祭祀について、特に伊勢の神宮に焦点をあてて研究しています。神宮には9世紀初頭に編纂された「皇太神宮儀式帳」という古文書をはじめ、平安時代以降の祭祀の様子を記した様々な史料が残されています。

それらの史料を読み解くことで、当時の神職達が「何を考え」、また「どのような想い」で神明に奉仕していたのかということを知りたいと考え研究を進めています。

本学大学院修了後、伊勢の神宮に奉職し、凡そ10年の間伊勢の地で神明奉仕に努めました。折しも、私が奉職した平成17年は、20年に一度行われる神宮式年遷宮が本格的に始まった年であり、御遷宮の最初の祭儀である「山口祭」から、最も重要な祭儀である平成25年の「遷御の儀」まで、1300年の長きにわたり伝えられてきた伝統の一端を担わせていただきました。

また、在職中に宮内庁掌典職でも奉仕する機会を頂戴したことにより、今上陛下の御即位に際しては、「大嘗祭」をはじめとする、様々な重儀にお仕えさせていただきました。

神道文化学部の教員として着任してからは、主に「神社祭祀演習」という科目を担当しており、神職が神前で奉仕する際の作法や立ち居振る舞い、装束の著装法などを指導しています。「作法」を学んでいると、とかく「かたち」に目が向きがちですが、そこに「こころ」が伴わなければ、本当の意味で神明に奉仕しているとは言えません。

授業では、私自身が様々な重儀を奉仕、経験することで学び、感じたこと、そして先人達が守り伝えてきた神明奉仕の「こころ」を、神職を志す学生達に余すことなく伝えていきたいと考えています。

### 宮中・神宮のご奉仕で培った「こころ」を、学生たちに伝えていきたいと願っています



#### 國學院大学の奨学金制度

※令和8年度の制度です。社会状況の変化を踏まえて変更することがあります。

1年次は 全員支給	神道・宗教 特別選考新入生対象	返済不要	神職子女奨学金 …[1年次生] 自宅外通学者40万円/自宅通学者20万円支給(全員、年額) …[2年次以上] 自宅外・自宅通学者ともに10万円支給(GPA2.0以上、20名以内、年額)
夜間主学生対象	返済不要	國學院大学フレックス特別給付奨学金	※令和8年度3年次編入生対象(家計・成績要件等、条件あり) ※令和9年度入学者向けの制度は変更の可能性が有ります
神社界からの奨学金	返済不要	■ 神社本庁育英奨学金 ※条件あり	■ 稲荷奨学金(伏見稲荷大社) ※条件あり
		■ 全国敬神婦人連合会育英奨学金	※募集されない場合があります



詳しくは、大学ウェブページをご覧ください。 <http://www.kokugakuin.ac.jp/student/scholarship>



星野 光樹 准教授

祭式・国学

星野先生はこんな先生！

瀧本 美遊 さん  
〔神社祭祀演習ⅢB〕受講



星野先生はとてもフレンドリーで親しみやすく、学生一人一人に分け隔てなく向き合ってくださいの優しい先生です。私は2年次から、サークル活動や祭式の授業を通してお世話になっておりますが、基礎作法の徹底したご指導はもちろんのこと、それぞれの学生の現状に応じた細かく行き届いたアドバイスもしていただきます。もちろん時には厳しくご指導されることもあります。常日頃はいつもチャタリングでユーモアあふれるお人柄が、学生から大人気です。

私は茨城県水戸市に生れ、高校は商業高校で勉強しました。大学では、より精神的な分野について学びたいと思い、國學院大學文学部神道学科に進学し、神職資格も取得しました。

大学院に進学し、そこで神道の根幹ともいべき祭りと、その実践方法である祭式を学ぶことの重要性を指導教授である故阪本丸先生から教えていただき、研究テーマを近代の祭式に決めました。

最初の発見は、明治維新以降に成立する新しい国家祭祀で、天皇みずから玉串を奉り拝礼するという祭儀が成立していたことです。これは当時、祭式を立案した国学者によって、神武天皇みずから神々を祭祀した伝承に基づき、その幣帛(お供え物)として玉串が相応しいと考えられたことによります。その後、国学者による伝統の復古と祭式の成立という問題を幕末期から捉

えてみたいと思い、平田派国学者で京都の向日社祠官であった六人部是香に焦点をあてて、研究を進めることにしました。

六人部は、どんな小さな神社であっても、そのご祭神は国家をはじめ氏子の人々に至るまで守護し、繁栄を齎す存在であり、神職はそのようなご祭神に対し、本来的な祭式に基づき、誠心誠意、祭祀に奉仕すべきであると述べています。

現在の祭式は、六人部をはじめ、先人たちが祭祀の伝統を守りつつ、本来的なものを考え、信仰に相応しいものにしてきた努力のうえに成っているものです。

神職を目指そうとする学生諸君は、このことに思いを致し、この國學院大學で、神職としての矜持が持てるように励んでもらいたいと思います。

### 観月祭の経験は、私の人生の「宝物」！



瀧本 美遊 さん

神道文化学部4年  
奉職内定



私の実家は、代々神社を受け継ぐ社家です。幼い頃から神道を身近に感じておりました。曾祖父・祖父・母が、揃って院友ということもあって、本学への進学を考えるようになったのです。大学生活では、4年間を通して、神道に関わる多くの学びや経験を得ることができました。本当に楽しくも充実した日々を送ることができたと実感しています。

神道文化学部では、神道に特化した講義や演習、実技科目が充実しており、専門的な学びを深めることができます。神職課程における実習では、神職を志す学友と共に多くの神社を訪れ、実際のご奉仕を通して、互いに切磋琢磨しながら学ぶことができました。机上の学びだけでは得られない、様々な発見に充ちた貴重な経験でした。

4年間の学生生活の中でも、特に思い出深いのがサークル活動です。本学には、神道に関わる6つのサークルがあります。私はその一つである青葉雅楽会に、2年次から入会しました。未経験の上、1年遅れての入会だったため、周りとの差に悔しさを感じることも多々ありましたが、仲間や先生方、多くの方々からの支えを受けながら、日々

稽古を重ねることができました。

おかげさまで大学行事の観月祭においては、龍笛の音頭、打物、左舞などを披露させていただきました。観月祭の経験を通して、仲間と協力して一つの舞台を作り上げる喜び、新しいことに挑戦することの楽しさを、身をもって実感することができました。

観月祭は、私自身を大きく成長させてくれました。それは私にとって、「人生の宝物」とも言えるような大切な経験となったのです。

春からは、神社へ奉職いたします。神道文化学部での学びと経験を生かし、まごころをもって神社のご奉仕に取り組んでいきたいと願っています。実際のご奉仕の中で、さらなる多くの学びや発見が得られるものと思っています。今からとても楽しみです。

私は神道文化学部で、多くの方々と出会い、神道に関わる幅広い学びや経験を積むことができました。志願者の皆様が、この学部でかけがえのない仲間たちと出会い、心おきなく新しいチャレンジに立ち向かっていくことを、心から願っております。

